

論文審査の要旨 (甲)

申請者領域・分野 氏名	総合医療・健康科学領域社会医療総合医学教育研究分野 氏名 佐藤 諭
指導教授氏名	中路重之
論文審査担当者	主 査 水沼英樹 副 査 福田眞作 副 査 田坂定智
<p>(論文題目) Association of Sex Hormones with Neutrophil Function in The General Population (一般住民における性ホルモンと好中球機能との関係)</p> <p>(論文審査の要旨) 900 字程度</p> <p>性ステロイドホルモンが獲得免疫に影響を及ぼし、免疫機能に影響を与えるとの報告が見られるが、性ステロイドホルモンが自然免疫に与える影響を検討した研究はほとんど見られない。そこで、申請者は性ステロイドホルモンおよび性腺刺激ホルモンが自然免疫に及ぼす影響を検討した。</p> <p>方法：2014 年度岩木健康増進プロジェクトに参加した一般住民 1167 名のうち、悪性腫瘍、免疫疾患、婦人科疾患、糖尿病の既往者、ステロイド、非ステロイド性抗炎症剤、性ホルモン製剤服用者、妊娠・授乳中の女性、月経が不規則な未閉経女性を除外した 540 名（男性 358 名、未閉経女性 139 名、閉経後女性 48 名）を対象とした。未閉経女性では月経開始日より 14 日以内に採血した場合を卵胞期女性、15 日以降月経開始前日までに採血した場合を黄体期女性として扱った。好中球機能として平常時活性酸素種 (ROS) 産生量および異物投与時活性酸素産生量、食食能を測定し、この好中球機能と血中エストラジオール (E2) 値、テストステロン (T) 値の関連性を重回帰分析で検討した。なお、重回帰分析の実施に当たっては、年齢、BMI、Pack-year、運動習慣の有無、及び、黄体化ホルモン (LH)、卵胞刺激ホルモン (FSH) を調整項目に加えて行なった。</p> <p>結果：1) 男性では FSH と異物投与時 ROS 産生量の間に負の相関関係を認めた。黄体期女性では LH、FSH と平常時 ROS 産生量の間に正の相関を認めたが、卵胞期女性、閉経後女性では相関関係は見られなかった。2) 男性では E2 と平常時 ROS 産生量間に負の相関関係、および T と異物投与時 ROS、食食能間に正の相関を認めた。黄体期女性では E2、T と平常時 ROS 産生量間に負の相関を認めたが、卵胞期、閉経後女性では有意な関連はみられなかった。また、この関連性は LH、FSH を交絡因子として加えても変化しなかった。</p> <p>以上の結果より、本研究は性ステロイドホルモンが自然免疫系にも作用していること、特に女性では月経周期や閉経の影響を受けることを初めて明らかにした。本研究は新知見を含み、学位授与に値する。</p>	
公表雑誌等名	弘前医学